

不登校を経験した子どもへの

学年末から新年度はじめの対応

長い間学校を休んでいて、再び登校するときの子どもの気持ちはいったいどのようなものなのでしょう。登校したい気持ちになっていても、久しぶりに会う友だちからどんなに思われるだろうか、分からなくなった勉強、多くの人の中に入っていくことなど、不安な気持ちで一杯です。

このような子どもたちにとって、学年末と学年始めは、進級に対する期待と不安が入り交じった再登校する大きなチャンスの時期です。

まず、子どもの苦戦している状態を再確認し、担任として、学校としてできることは何か、作戦を立てましょう。特に、6年生の場合は小学校と中学校が緊密に連携して取り組むことが大切です。引き継ぎ時に「長期欠席個別支援票」等を活用しましょう。

学年末から春休みにできること

修了式の日家庭訪問では、1年間の成長を認め合えるプラスの雰囲気をつくる。学級担任が決まったら、引き継ぎとともにミニチーム支援会を行う。(学校との折り合いが悪く苦戦しているのはどこか？ 勉強？ 友だち関係？ 人数の多い所？ など)

春休みの家庭訪問や保護者面接を行う。

登校できそうな場合は、本人が「どのような形で新年度をスタートしたいと思っているのか、どのような形なら登校可能なのか」を確認する。

- ・ 登校場所は？ …… 教室から、保健室から、相談室から、学習室等の別室から。
- ・ 時間帯は？ …… 朝から、時間目から、決まった教科から、放課後から。
- ・ 本人がかかわって欲しいと思っている教職員や友だちは？
- ・ 本人がやりたいことは？ …… 得意教科や趣味、得意としていること。
- ・ 登下校の方法は？ …… 1人で、友だちと、親と、先生と。
- ・ 始業式の日程等、あらかじめの予定や行事を説明し、登校に対する安心感を与える。

始業式の日からできること

登校した時の受け入れ態勢を確認しておきましょう。

最初は、本人の気持ちを確認し、決して無理をさせないことが大切です。

本人が意思決定できる機会をつくり、徐々に意欲を高めていく、かかわる人、やれること、行ける場所をだんだんと増やしていきましょう。

友だちとの交流の場を増やし、集団への参加を増やしていきましょう。

登校できなかった時は、できるだけ早く家庭訪問をして、教科書や通信等を届け、「あなたもクラスの一員(仲間)だよ」というメッセージを伝えましょう。